あかりだより

No.29

発行：2019 年 8 月　　発行者：社会福祉法人 あかりの家　　題字：近藤　和男

キレイなクロスステッチが　たくさんできました

愛称は みんと です！～みんなととともに～
高砂市障がい者基幹相談支援センター

令和元年度から **高砂市障がい者基幹相談支援センター** の設置が決まり、あかりの家が委託を受け運営することとなりました。

基幹相談支援センターの役割は、障害のある方が住み慣れた高砂市で安心して生活できるようにするための総合相談窓口で、大きくは４つの柱からなります。

総合相談
総合的な相談の窓口として、皆さんの生活の悩みごと、ご家族や関係者の方の心配事などをお受けします。

権利擁護・虐待防止
成年後見制度・虐待防止など、権利擁護に関するご相談をお受けします。

相談支援体制の整備
相談支援事業者への人材育成や助言。関係機関との連携強化に取り組みます。

自立支援協議会への参画
地域の関係機関のネットワークづくりを推進します。

高砂市
マスコットキャラクター
“ぼっくりん”

このようなご相談もありました・・・

○今は家族と住んでいるが、家を出て自立したい。でも一人は寂しい。
➡ 障がい者雇用で働かれているので、職場近くのグループホームを探しています。

○夫婦の会話が噛み合わなくて喧嘩になってしまう。伝わりやすい方法を教えてほしい。
➡ クローバーにお継ぎし、会話のスキルアップ練習を始められました。

○小学校高学年になって同級生と遊べなくなった。学校も休みがちになってきた。
➡ お母様の不安をお伺いし、お話を進めるうちに笑顔になられました。

「基幹相談支援センターみんとです」とご挨拶

まずは、お電話ください！

爽やかな色の“みんと号”で出動です！

【相談窓口】
受付時間：月曜から金曜の９：00～17：00　TEL　079－254-2626　FAX　079―254-2627

私たちの作業場は、私たちが整理しています！
ワークホーム高砂

～５Ｓ活動　整理・整頓・清掃・清潔・習慣～

ワークホーム高砂では、本年度から「自分たちの作業場は自分たちで整理する」を合言葉に、利用者さんによる５Ｓ活動を実施しています。これまで職員が声かけを行ったり、清掃日を設けるなどして清掃活動を行ってきました。今回の５Ｓ活動のきっかけは、作業では働く事が定着してきて、利用者さんの自主性をもっと伸ばしたいと思い利用者さん主役の活動としてスタートしました。食堂などの生活空間を担当する「**美化委員会**」、作業場の清掃を担当する「**作業場清掃委員会**」、作業物品を管理する「**作業管理委員会**」を立ち上げ、利用者さん自身の手による５Ｓ活動が展開されています。少しずつその成果も表れ始め、利用者さんの自主性、美化意識も高まっています。

《美化委員会》

昼食後のテーブル拭きや昼食の片づけ、食堂の掃除などは、これまで職員が行っていましたが、「自分のことは自分でやろう！」と、美化委員会のメンバーを中心に自分たちで片付けや清掃に取り組み始めています。

《作業場清掃委員会》

ワークホーム高砂はクリーニングという作業種目のため、毎日考えられないような埃の量に悩まされてきました。これまでは職員の声かけで清掃を行っていましたが、作業場清掃委員会のメンバーを中心に自主的に作業場の清掃に取り組み始めています。埃がたまってきた作業の合間など、自分たちで気づき、率先して掃除機かけを行い、気持ちの良い作業場づくりを自分たちで作り上げています。

《作業管理委員会》

作業にかかる在庫管理はこれまで職員のみで行っていました。まず、作業場のいたるところに置いてあった出荷用袋を一か所に集めて整理整頓を行い在庫管理がしやすい環境を整えました。作業管理委員会のメンバーが週に１回、在庫の整理を自分たちで行い整理整頓を心掛けています。これまで職員が行っていたことを少しづつ自分たちで行っていくことで、「自分たちが主役の作業。自分たちのワークホーム高砂」という風にこれまで以上に利用者さんの意識が高まり始めています。

保育所等訪問支援事業
児童デイサービスあかりの家

お子さんたちに事業所へ来てもらって行う支援以外にも、地域での暮らしを支える支援を行っています。

保育所等訪問支援事業とは？

障害のあるこどもが、気持ちよく集団生活に適応することができるように、ご本人の状況や置かれている環境に対して、支援を行うもの。

内　容

障害児本人に対する支援（集団生活適応のための訓練等）
訪問先施設の保育士等に対する支援（支援方法等の指導等）

聞き取り
（保護者・保育園など）

行動観察・直接支援、助言

助言レポート

助言レポートの一例

【3歳児　Aくん】

集団の中で見ると、かなり目立つとおっしゃられていたことが、よくわかります。お伝えはしましたが、基本的にAくんの様子を見続け思うこと、気になることは、“分かっていることも多いし、お話もできるし、すべきことはできる。けれども、自己流・マイペース”ってことです。

もう少し言うならば、“家での彼と外での彼の境がない”ってことです。そのこと単体で見ると、何も問題はなさそうに思えますが、考えねばならないことは、彼が社会の中で生きていくってことです。状況に合わせ、相手に合わせて、時には、相手の気持ちを想像しながら過ごさねばなりません。脈絡の中で、相手の心を想像することができるようになるのが、４歳と言われています。ただ、それまでにも察するという力は持っています。そこです。Aくんに対して抱く違和感。

先生のことをお母さんと一緒の様に感じている。愛着という視点で見ると、それは必要なことなのですが…、年齢的にも、入園してからの歳月を考えても、愛着対象がないと不安で仕方がないという時期は過ぎていると考えます。愛着ではなく、自分の願いや思いを聞いてくれて叶えてくれる“大人たち”の一括りに捉えているような気がします。

もっと、周りに合わせるということを意識してほしい。“したいかしたくないか、好きか嫌いか”の世界ではなく、“しなければならない、こうするものだ”といった枠があって、それに合わせることでの世界の広がりを持たさないといけない時期かと思います。来年で遅くはないと考えても良いのですが、来年できるという保証はありません。……。

どのポイントで、その練習をするか、できるのかということを考えてはいかがでしょうかとお伝えしたいです。ずっとは無理ですが、この場面、この状況はきちんと言うことを聞かないといけないと彼が思える“点”を作っていきましょう。その点が２つになり、３つになり、10個になり、100個になったら、線になってきます。

３つのグループホーム

希望山荘日笠（法人運営17年目 定員10名）
「別館」新設！―定員10名に増員―

2019年5月、希望山荘本館の隣に別館が開設され、定員が7名から10名となりました。
　本館でも10人の食事や憩いスペースに対応が出来るよう大規模なリフォームが行われました。工事期間中はキッチンが全く使えず、リビングに冷蔵庫や電子レンジを移動させ、食事作りは隣接する友愛の家のキッチンをお借りしました。
　食器は全て紙皿で対応する等、不便な生活をみんなで乗り越えた分、完成した時には「きれいやなぁ！ひろいなぁ！」と歓声が上がりました。10人で囲む食卓は笑いが絶えません。

オリーブの家（開設5年目 定員7名）
やっぱり、朝食は和食だよね～！

　毎週日曜日の朝食は、「和食」を作っています。
「休日ぐらいはいつもと違うメニューを考えたいな」「ゆっくりとご飯を食べたいな」ということで和食作りを開始しました。
　和食と言えば「お味噌汁」。豆腐を切る人、野菜を切る人、お味噌をこす人…、役割分担をしながら一緒に調理しています。
　ただ、みなさん、圧倒的に味見が得意なようです（笑）。
時間をかけて作った料理を時間をかけて食べる光景は、まさに「日本の休日」といった感じです。
　これもまたグループホームの良さかなと感じるこの頃です。

友愛の家（開設3年目 定員6名）
移動支援サービスを使った週末外出を！
－ 友愛の家の挑戦 ２ －

　今年度、移動支援サービスを使って、週末の外出を試みていきます。
　“それぞれの休日の過ごし方”に行先や内容等、広がりを期待しています。
　Ａさんの情報提供など、間接的な支援の在り方を、私たちにとっても学んでいく機会になっていくはずです。
　ヘルパーさん、どうぞよろしくお願い致します。

あかりだより No.29　2019年９月

あかりの家の「食」への取組

～ 給食施設目標：直営厨房だからこそできる!! 利用者個々の健康増進に配慮した安心で安全な給食提供 ～

健康維持

「食べる」とは楽しみでもあり、
生活習慣予防、摂食燕下機能の維持に努めています

○ 利用者個々の栄養基準の作成
○ 毎食の喫食状況・毎月の体重変動の把握
○健康診断・血液検査データ・病気の有無　　等

個々の状態を細かく観察し、利用者さんの健康維持・増進につなげていきます。

ナトリウム値が低いIさん。
本人の身体が少しでも楽に過ごせるように、毎食後、梅干しを摂取しています。

直営厨房の個別対応

「食べやすい食事」の提供

その人にあった微妙な違いの食形態を提供することに特化しています。
口腔機能の低下があっても、口から食べる楽しみを奪わないように、すぐにペースト状やミキサー食にはしません。支援員、医務部との密な連携で、安全面に配慮した軟菜食やトロミ食を導入しています。

嚥下機能が低下したTさんとHさんの食事です。
嚥せやすいもの（コーンなど）を除外し、野菜は圧力鍋で柔らかくしています。

３年目に突入！栄養ケアマネージメントの現在

３年前…
健康診断・身体測定が判断基準の主だった

↓

現　在…
日常生活・疾病・食事の様子など、多くの情報を基に、支援部、医務部、管理栄養士が、他職種協働でよりよい栄養管理に！！

食　器

陶器製の食器を使用

陶器製の食器に料理が盛りつけられると、とても温かみ溢れる食事になります。

配　膳

それぞれの課題をちょっとした工夫でわかりやすくしてあげると、とても正確に丁寧に取り組めます

一人ひとりのご飯の量が決まっています。
Kさんが200gのご飯を計っていきます。1g、2gの調整もお手のものです！

配置が決まっているので、決められたところへ食器を配っていきます。

急須や湯のみにお茶を溢れそうなほど入れてしまうNさん。
お茶を入れるとき、最初に適量のところを教えてあげると、すべて、その分量で入れることができます。

たのしみ

手作りおやつ

手作りおやつが出される毎週水曜日と日曜日は、利用者さんも職員も楽しみにしていて、厨房もとても気合いが入ります。
身体に優しくをモットーに、糖分・塩分・油分を考慮して、レシピを決定しています。ほうじ茶プリン、豆乳入りきびだんご、季節にあわせておはぎも手作りします。

きびだんご（和菓子）

レアチーズケーキ（洋菓子）

特別メニュー

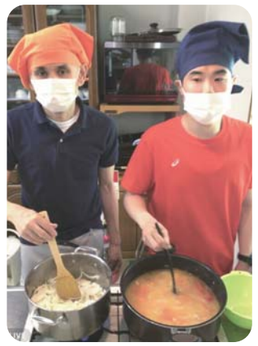
季節を味わう、いつもとは少し違うメニュー。
あかりの家の行事の日だけではなく、七草がゆ、節句、七夕、地域のお祭りなど、利用者さんへ健康の願いを込めた特別メニューです。

忘年会メニュー

ひなまつりメニュー

料理活動「作る」ことのたのしみ！

あかりまつりや忘年会で、利用者さんが自ら料理を作りふるまいます。
毎年夏に行われるあかりまつりでは、６年ほど前から、利用者さんが保護者に料理をふるまっています。昨年はカレーを作って、毎年恒例になってきています。



カレー作り
（あかりまつり）

あかりまつり

コーンスープ作り
（忘年会）

下　膳

キレイにする、片づけるといった抽象的な課題を、
どうすれば理解してもらえるかが大きなテーマです

使ったお箸とスプーンは、分けて向きを揃えて置きます。

下洗いは自分たちで…
丁寧にクルクルと、スポンジでこすってキレイにします。

厨房コメント

元気ハツラツで、個性豊かなメンバーがそろった厨房では、汗水と涙を流しながら、みなさんの食事を作っています。
休憩時間には、休日にプライベートで食べたランチについて話をしながら、新しいメニューを考えています。

幼児期支援 ～相談をとおして～

ひょうご発達障害者支援センター クローバー

発達障害もしくは発達障害の疑いがある人の相談が約年間 2,000 件寄せられます。この度は、幼児期の支援事例を紹介します。幼児期は大変大切な時期で、その後お子さんの将来の基盤になるところです。本人への療育支援と所属園へのコンサルテーションを行った例を挙げさせていただきます。

＜テーマ＞

クローバーは 4 つの葉「子どもと家庭」「園」「学校」「クローバー」のつながり

「おれ、みんなといっしょにしたいねん」

＜支援経過＞

年中 4 歳児の A 君のことで、幼稚園からコンサルテーションの依頼がありました。

整列やダンスなど苦手で「したくない」「おもんない」と言い、友だちに近づき過ぎたり、 友だちの言葉を誤解してパニックを起こすとのことでした。

園に訪問して、彼の分かりづらさを説明し、やりたいけれども上手く動かない手や身体のことを伝えて「手添え」での介助をお伝えしました。言葉に言葉で応じると、暴言となるので、彼の思いを代弁していくことや本当の思いを汲み取ることを説明し、彼の場面の捉え方と言っていることの意味をお伝えしました。

クローバーに親子で個別療育にも来るようになりました。お母さんは「小学校へ向けてみんなと一緒に行動してほしい」「自分に自信をもって大きくなってほしい」と言われました。A 君は、新しい課題に「げっ！！」と言うので「思っているのと違ったんやね。」と言い換えるとすぐに課題に向かいました。人への言い方では「もう 1 回言ってください。」や「わかりません。」と教えると園や家庭でも使うようになりました。手が使えず、うまく書けない時には紙にあたって破ろうとしたので、止めて一緒に書き直しをしたり、鉛筆を折った時は一緒にセロテープで貼って書き直しをしました。

年長 5 歳児になって、園に再度訪問しました。先生が日めくりカレンダー係に任命しましたが、忘れていると友だちがやってしまい、トラブルになりました。先生が話し合いを設けて、友だちの気持ちや本人の思いを汲み取りつつ、みんなでどうしたらいいか問題解決にもっていかれました。

就学直前になり、園訪問の際に小学校のコーディネーターの先生も来られ、学校での配慮点を話し合い、迎える学校の体制づくりの支援を行いました。お母さんは登園時歩くようにして、近隣の方々への挨拶も怠らず、彼もほめられて周りの方々から感心されるほど挨拶がすばらしくなっていきました。

＜まとめ＞

- 家族は、本人がわがままなのか躾できない育て方のせいなのかと自責の念に追い込まれつつありました。園の先生方の温かい応援とお母さんが先輩の話を聴かれて「子どものために」と園へ行くように努力されました。初めは「A 君に叩かれた」と他の保護者からの苦情の中でいたたまれない気持ちでしたが、顔を上げられるようになられ、就学へと準備もされました。
- 園の先生方は彼の表面的な言動にひかれることなく指導をされていかれました。決定感の誤解をさせないようにされ、先生が彼の暴言を代弁し、友だちとの橋渡しをされました。その過程は、社会性の学びになっていきました。
- 学校へは、入学前から必要な情報や園での関わりを伝えておくことで体制づくりにつながりました。入ってから対応を考えるのではなく、適切な関わりを繋ぎ、認知の特徴や言動の意味を伝えておいたことで良い出会い方ができました。
- クローバーは本人への応援と彼を取り巻く機関をつなぎ、応援団をつくるようにしました。就学後、学校訪問をした時に机を一生懸命に拭いていて力を入れてゴシゴシと、素早く次の机に向かう姿はすばらしい姿でした。

今津房子様　ありがとうございました

あかりの家の理事である今津房子様が、本年４月 12 日深夜、ご逝去されました。86 歳でした。

「自閉症者に個々の特性を活かし、生きがいのある生活を送ってもらいたい」というお気持ちで、自閉症がまだ一般に認知されていない中、あかりの家の設立にご尽力いただきました。設立後も希望山荘日笠をはじめとする、グループホームを中心に、法人運営に対し物心ともにご協力いただいてまいりました。

これからも今津様のお気持ちを忘れることなく、自閉症支援を続けてまいります。

今津様、長きにわたりお疲れさまでした。ご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

納豆づくりの
ボランティアをされていたころ
（希望山荘日笠にて 2011 年7月）

東播北播

人ときき

素晴らしい特性と心

自立への手助けの場に

メガネのシバタ

あかりの家設立に向けての尽力を
神戸新聞に掲載される
（1984 年9月3日）

あかりの家
自閉症療育のキーワード集(16)
「第 25 回あかりの家事例研究会」研究誌より

<実践の中で得たエッセンスをことば>にし始めて17年になる。ミニ事例も300を越えた。以下、『第25回あかりの家事例研究会』研究誌（'19.2）からの抜粋である。

新１ スクラッチアート ―関係作りにモノをはさむ―

多くの職員が関わりにくさを感じていたHさん。リビングでもトイレでもあちこちで頻繁に、鼻をかんだり唾を吐いて、その後必ずのように「パー」と大声を出す。

そこで、今年度自ら担当を希望して、関りの方向を変えようとスクラッチアートに取り組んだ。手添えからの出発であったが、初めて見るスクラッチアートに興味を示した何人かの女子職員がHさんのスクラッチアートに関わり始めた。2Fの男子職員も通りがかりに「Hさんやらして」と一緒にすることもあった。

完成した作品は、多くの人に見てもらって、多くの人に声をかけてもらいたかったのでリビングに飾った。更に欲張って５月のあかり喫茶で「H作品展」と銘打って交流ホームの壁に作品と制作中の真剣な表情の写真を飾った。

一方で、声かけの幅も広げたいとも思い、身体に合ったかわいらしく見える服を意識して買った。スカートも買った。

狙い通り、職員の声かけの内容も回数も増えた。Hさんもニコニコとしている事が増え、大声も減った。大声が出ても表情は柔らかい。

そして何よりも、グッズを通して関わることで、関りにくさを感じる職員は減っていった。新任職員にも担当利用者との関係作りにグッズを利用してもらった。実習生にも広げ、保護者にも喜んでもらう広がりも出た。（'18　内田）

新２ 新任の私の成長

新任採用の4月、F 長より、Mさんの担当を伝えられた。そして「デザインカッターで切り絵に取組み、10月のあかり喫茶で作品展をする」との課題を頂いた。しかし、初めてなのでまず自分の道具を揃えた。

6月にMさんの道具も揃えた。日常業務の少ない隙間をみつけての練習であったが、直線は少しずつ上達していった。しかし、曲線は「こう!」「クルッ !」と言いながら手添えでの練習であったが、失敗ばかりが続いた。

8月、直線中心の下絵で作品作りを始めた。はみ出しも多くあり、線の初めと終わりに赤丸で目印を書き「ピタッ !」と声掛けすると段々できるようになった。喜び合う時間も意識して持った。

9月から曲線。先輩のアドバイスで手首の動きを意識した手添えをしながら、段々と手添えも必要でなくなった。集中して取り組む時間も長くなり、笑顔も増えた。一方で、私のことを担当として認めてくれている様な実感も感じ始めた。嬉しかった。

そして 10 月。作品展当日、お母さんが来られた。飾り終えた作品を見て「ほんまに出来るんやろかと疑っていたけど、こんなに綺麗に出来ていると思わなかった」と少し目を潤ませて言われていた。彼も嬉しそうだった。

「利用者さんの目線になって色んな視点から」支援を考えていくための具体的な課題を、新任の私に与えていた頂いたことに、今になって気付き感謝している。（'18　松島）

新３ 連絡帳

Hさんのお母さんとは、体調の関係で連絡帳でのやりとりが大半であるが、あかりでの色んなエピソードを書いても定型的な返事しか返ってこない。どんな話題だとつながっていくのか悩んだ。

担当を持って3年目、なんとかお母さんの心を掴みたいとHさんと刺し子に取り組んだ。そして、完成した刺し子布巾は、Hさんの頑張っている様子を貼ったアルバムを添えてお母さんに贈った。するとお母さんから「あかりでのやりがいができたことは本当に嬉しい」と喜びの返事があった。

コースターは、来客がある度に使われ「息子があかりで頑張っている」と言っておられるらしい。日に日に上達している様子も伝えると「学校ではこんなことをしたことがなかったので嬉しい」「作品展ができると良いですね」とお母さんの方からも明るい話題が飛んできた。

帰省がなくなった現在「完成したらお母さんに見せようね」を励みに取り組み続けている。Hさんとの取り組みとお母さんへの報告は、私との連絡帳を変え、お母さんも変えた。（'18　藤原）

新４ おだてられ、嬉し恥ずかし朝ごはん作り

GHのJさん、指の皮むきが頻繁にある。何とかして止めてあげたいが、関われるのは月に 1 回程度の遅出宿直の時だけ。しっかり止めてあげられそうにない。

そこで指の皮むきをしなくて済むための取り組みを考えた。その一つとして、GHの翌朝の味噌汁の下ごしらえにJさんを誘った。野菜などを手添えで切ったりしているうち、Jさんが「眞鍋料理小学校やな～」と言い始めた。楽しくなって、宿直に入る度に一緒に下ごしらえをした。すると、他の職員から「Jさんが眞鍋さん、眞鍋さん言っているよ～」とよく聞くようになった。

Jさんにおだてられ?職員におだてられ?気分が良くなって、下ごしらえがついつい味噌汁づくりまで進んでいった。そして、それが私とJさんの宿直の定番になった。（'18　眞鍋）

新６ 相談日から得たエッセンス ～ 一緒に乗り越えて関係を築いていく ～

入所して1年近くになるNさん、40代半ばにあることで奥歯を割り、抜歯したそうだ。以降、病院に行けなくなって、病院の敷地にすら入れなくなった。

既に50歳。病院のお世話になることも増えるだろう。何とか病院に行けるようしたいと、嘱託医の相談日に、相談した。そして、以下の助言をいただく。

「奥歯の抜歯が彼にとって今まで経験したことの無いような嫌な体験だったのだろう。必要な事はまず、怖かったことを分かってあげて、不安を和らげてあげる事。その上で一緒にスモールステップを積み重ねて乗り越えていく。少しずつ困難を解決して、解決能力を身につけていく。二者関係を築き、二者関係で乗り越えていく」

とりわけ「一緒にスモールステップを積み重ねて乗り越えていく」と「二者関係を築き、二者関係で乗り越えていく」という2つのフレーズが心に響いた。何か先が見える感じがした。

そうして、地域行事や園内健康診断や予防接種等に一緒に付き添い関係を深めていった。

まだ「この人がいれば大丈夫」といった二者関係は築けていないが、様々な抵抗感は短時間で乗り越えられるようになってきた。

彼だけが頑張るのでなく一緒に乗り越えて、一緒に悩んで、今に至っている。（'18　安東）

新９ 働くことで豊かになる

高等部卒業後、分場とWH高砂（就B）で17年半の通所利用を経て、現在あかりの家で働いているHさん。4年半になる。仕事ぶりはまじめで、午前は洗濯業務中心、午後はいろいろな作業班補助で引っ張りだこである。

Hさんは電車が趣味。高卒後、電車の日帰り旅行を楽しんでいた。それが、あかりの家で働き始めてからは、年に一回、一人で一泊旅行をするようになった。夕食は、その地方の美味しいものをネット検索し、お酒と共に楽しんでいるとのこと。

職員であることにプライドを持ち「働くことは楽しいです」と言い切る。職員忘年会ではお酌もして回る。毎日休まず仕事を頑張るHさんはステキだ!

蛇足ながら、30 を過ぎた息子を旅に出すお母さん、この勇気もすごい。（'18　小山）

あかりの家イロイロ情報局

短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ 2,677 日の利用がありました。

くるみんマーク取得

次世代育成支援対策推進法に基づく基準に適合する事業所として、「兵庫労働局」より2015年4月15日付で認定されました。

障害児等療育支援事業

在宅障害児（者）及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフがご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

Ⅰ：お宅にお伺いしてご相談をお受けします。**（在宅支援訪問療育等指導事業）**
Ⅱ：あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。**（在宅支援外来療育指導事業）**
Ⅲ：通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。**（施設支援一般指導事業）**

自閉症専門図書・ＶＴＲの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約400冊保有し、希望する方に貸し出しています。

姫路親子体操教室

親御さんが子供さんの身体に働きかけながら、<親と子のいい関係>＝主導と受容のバランスある力をつけていくことを応援しています。

手づくり納豆 なっとこちゃん　ワークホーム高砂

現在、４種類の手づくり納豆を製造・販売しています。
次年度には新しい納豆作業場が完成する予定です。
好評の“なっとこちゃん”を是非ご賞味ください。

ナイスハートバザール　あかりの家 さをり班

今年もアスパ高砂の協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。また、さをり織りの実演、体験もしていただけます。是非とも足をお運びください。

日時：12月　7日（土）・8日（日）　　場所：アスパ高砂　セントラルコート

デニムポーチ＆Sawori Candy

社会福祉法人 あかりの家 自閉症総合援助センター

- 自閉症成人入所施設 あかりの家
- 地域支援センター あいあむ
- 多機能型通所施設 ワークホーム高砂
- グループホーム 希望山荘日笠 オリーブの家 友愛の家
- ひょうご発達障害者支援センター クローバー
- 児童デイ通所施設 あかりの家
- 診療所（未）

各事業の有機的な連携と関係団体・関係機関・関係者との協働

生活の場 ／ 働く場 ／ 就労支援 ／ 療育支援 ／ 相談支援 ／ 地域生活支援 ／ 地域作り ／ 支援者養成 ／ 医療診断

利用者状況（H30年度）

（平成31年4月1日現在）

あかりの家
　施設入所 定員 40名、現員 39名
　　（男 30名、女 9名）
　生活介護 定員 40名、現員52名
　　（男 42名、女 10名）
ワークホーム　定員 40名、現員 43名
　　（男 33名、女 10名）
グループホーム　定員 20名、現員 18名
　　（男 15名、女 3名）

1. 出身別利用状況
　高砂市（34）加古川市（21）播磨町（8）
　姫路市（16）神戸市（9）尼崎市（2）
　小野市（1）加東市（1）神河町（1）県外（4）
2. 年齢
　あかりの家 最年長 64歳　最年少 20歳
　　平均 施設入所47歳 生活介護44歳
　ワークホーム 最年長 55歳　最年少 20歳
　　平均 就労B型34歳 生活介護39歳
　グループホーム 最年長 59歳　最年少 23歳
　　平均 43歳

社会福祉法人 あかりの家
〒671-0122
兵庫県高砂市北浜町北脇504番1　TEL(079)254-3292　FAX(079)254-3403
URL http://akarinoie.org/

障害者支援施設 自閉症成人施設 あかりの家
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５０４番１　TEL(079)254-3292　FAX(079)254-3403
E-mail akarinoie@nifty.com

多機能型事業所（就労B型・生活介護） ワークホーム高砂
〒676-0081　高砂市伊保町中筋１３３１　TEL(079)449-0701　FAX(079)449-4111
E-mail workhome@nifty.com

ひょうご発達障害者支援センター クローバー
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５１９　TEL(079)254-3601　FAX(079)254-3403
URL http://auc-clover.a.la9.jp/　E-mail auc.clover@nifty.com

児童デイサービス あかりの家
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５０４番１　TEL(079)254-3292　FAX(079)254-3403

地域支援センター あいあむ
〒671-0122　高砂市北浜町北脇５０４番１　TEL(079)280-3740　FAX(079)254-3403
E-mail aiamu@mbr.nifty.com

グループホーム 希望山荘日笠
〒676-0082　高砂市曽根町１７０４－４　TEL(079)447-3136　FAX(079)447-3136

グループホーム オリーブの家
〒676-0822　高砂市阿弥陀町魚橋３７５－16　TEL(079)439-7183　FAX(079)439-7183

グループホーム 友愛の家
〒676-0082　高砂市曽根町１７０４－５　TEL(079)440-7817　FAX(079)440-7817